

藤原宮大極殿院出土の地鎮具

2007年の大極殿院南門の調査（飛鳥藤原第148次調査）で出土した地鎮具です。大極殿院南面西回廊を築く際の地盤となった宮造営時の整地土を掘り込んだ土坑の中に置かれていました。出土した当時、須恵器の平瓶の内部には後に流入した水がたまり、口縁部にも土が詰まっております。CTスキャンやX線透過写真によって、平瓶内部の内容物の調査をおこないました。その結果、口縁部に富本銭が9枚、胴部の中にも水晶原石が9点おさめられていたことが明らかになり、藤原宮の造営に伴う地鎮具と判明しました。『日本書紀』に持統6年(692)5月に「藤原宮地を鎮め祭る」という記録があり、関連が注目されます。また、日本古代の都城や宮殿跡において確認された最古の地鎮具です。

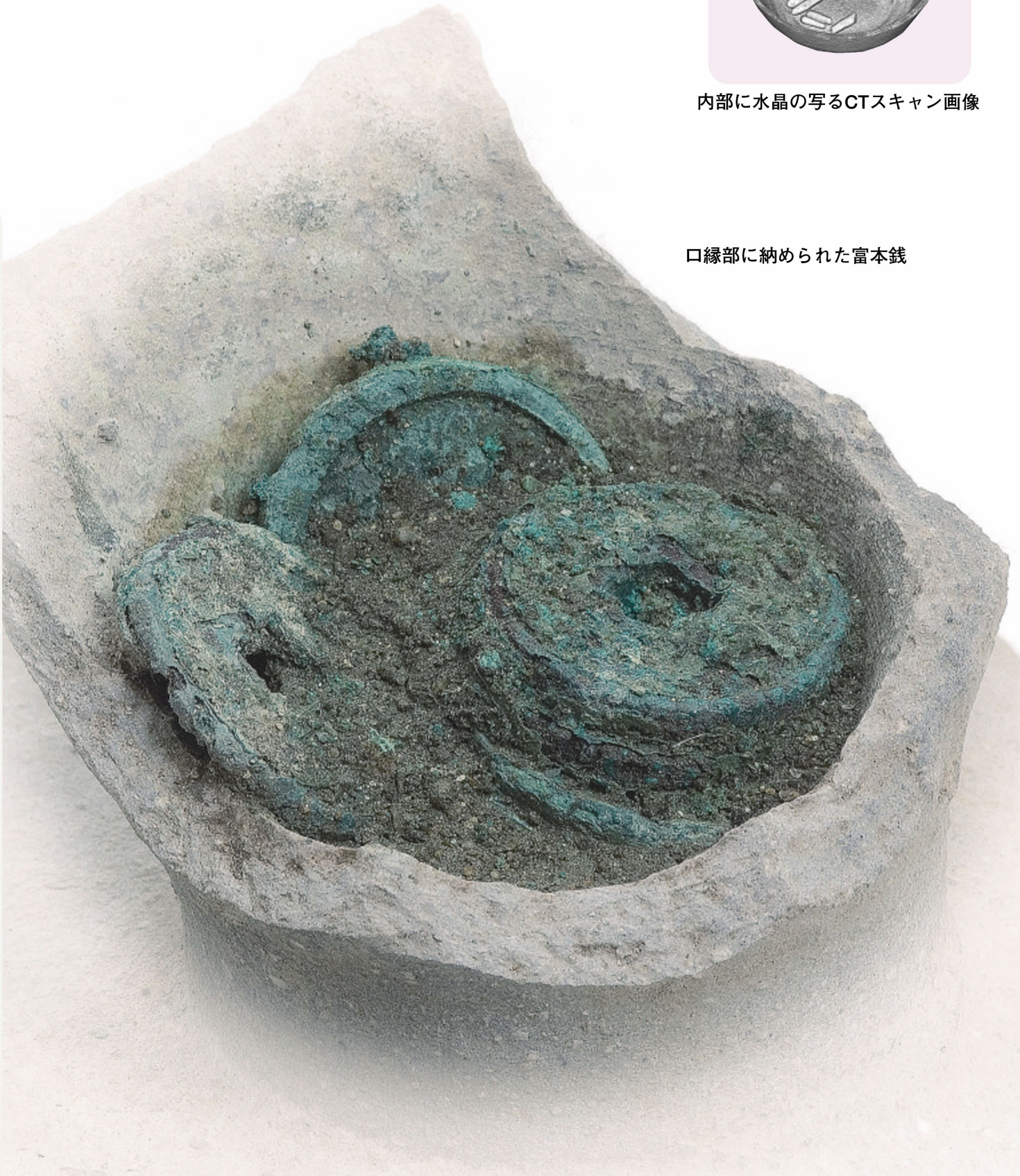
(都城発掘調査部 高田 貫太)



出土した地鎮具（最大径20.2cm）



内部に水晶の写るCTスキャン画像



口縁部に納められた富本銭